

- 提言チーム名 総務企画局職員提言検討チーム
 ○テーマ 世界をひきつけるまち **"Fukuoka"**
 ○概要



日本の人口が減少傾向にあるなか、福岡市が元気を維持し続けるには、人口の維持・増加が重要である。そこで、「福岡に住み、訪れる人を増やしたい」、「日本にとどまらず世界の人との交流を増やしたい」という思いから、25年後の福岡市の目指す姿を考えた。

25年後の福岡市：『世界をひきつけるまち **"Fukuoka"**』

- ・住んでいる人と訪れる人との様々な交流により、新しい発見や刺激が生まれるまち
- ・都市の便利さと自然がほどよく調和しており、市民が笑顔で暮らしているまち

福岡市の現状を踏まえ、世界をひきつけるまち **"Fukuoka"** の実現に向けた3つのまち像

1. 出会いがあるまち

住んでいる人や訪れる人が様々なことに出会い、新しい発見や再発見、刺激が生まれ、また訪れたい、今後も住み続けたいと思うまち

2. 元気がでるまち

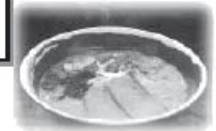
福岡を訪れることで、元気をもらい、訪れてよかったと思い、住んでいる人も、福岡に住んでいてよかったと笑顔で暮らせるまち

3. 住みやすいまち

福岡市の住みやすさという強みを最大限に活かし、住みやすいまちであり続けることで、住んでみたいと思い、今後も住み続けたいと思うまち

世界をひきつけるまち **"Fukuoka"** の実現に向けた方向性、取組みの提案

- ・ **"Fukuoka"** を知ってもらう ・ 市民主体で取り組む
- ・ **"Fukuoka"** の強みを活かす ・ **"Fukuoka"** の潜在的な力をひきだす



① 出会いがあるまちの実現に向けて

- アジアタウンの設置・人材が集まるまちづくり・国際的な出会いの場づくり
- いろいろな言葉が通じるまちづくり（市職員はもちろん、小学生も！）

② 元気がでるまちの実現に向けて

- プロスポーツの活性化・スポーツ国際大会の開催・健康づくり・雇用の場づくり
- 福岡のビューティー産業のブランド化・集客施設（観光地）の充実

③ 住みやすいまちであり続けるために

- 日本の支店経済からアジア・世界の支店経済へ（世界における日本の入口に！）
- 都心部に人工海浜を整備するなど、より身近に海を感じられるようなまちづくり

④ **"Fukuoka"** を知ってもらうために

- 世界的なイベントを開催することで **"Fukuoka"** を知ってもらう
- 市民・企業も世界に進出することで **"Fukuoka"** を知ってもらう

25年後の福岡市が世界をひきつけてやまないまちでありますように…

- 提言チーム名 財政局職員提言検討チーム
- テーマ 25年後の都市像と財政のあり方
- 概要

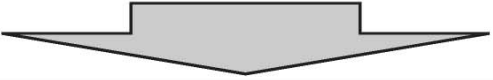
■25年後の期待する都市像

- ・アジア・九州のCapital City
- ・住みやすさの魅力溢れるまち
- ・人が生き活きと輝くまち
- ・次世代に向けて成長し続ける都市



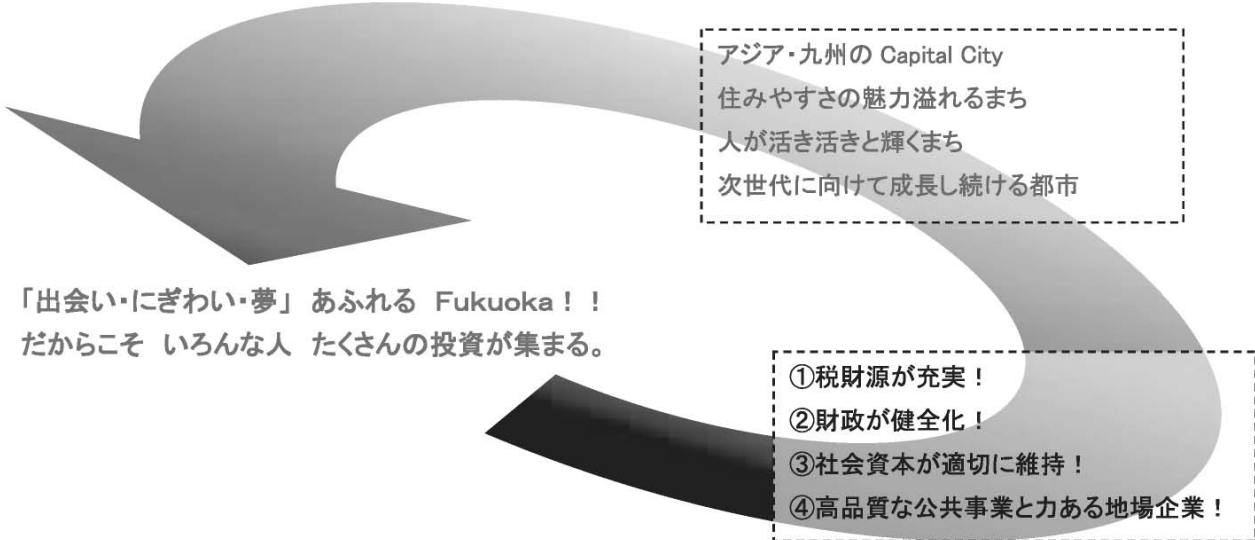
■財政の視点から25年に期待する福岡市の姿

<<<<< 財政の現状！	財政の課題！ >>>>>
<ul style="list-style-type: none"> ・市債残高は減少傾向 ・市町村合併による公共施設の重複がない ・施設の効率的な維持管理に早い段階から取り組んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本経済の停滞により“伸びが期待できない税収” ・急増する扶助費など“増加し続ける義務的経費” ・依然として“高い市債残高” ・膨大な社会資本の“老朽化と維持更新費用の増大” ・厳しい財政状況により“先細りする公共事業”



>>>>> 財政の視点から25年に期待する福岡市の姿 <<<<<
<p>①税財源が充実している！</p> <p>②市債残高が圧縮され財政が健全化している！</p> <p>→ 都市の発展や市民サービスの充実に必要な政策に十分な投資がなされる柔軟な財政構造が実現</p> <p>③市民サービスの提供に必要な社会資本が適切に維持されている！</p> <p>④高品質な公共事業と力ある地場企業が地域経済を支えている！</p> <p>→ 力をつけた地場企業と信頼を得た行政が官民協働で知恵と資金を出し合いながら、既存ストックの再編と次世代型の公共事業を確立し、持続可能な社会資本（公共施設、インフラ）が実現</p>

■アジアの“絆”をつなぐ都市 そして、人が集い交流するまち“福岡”へ



- 提言チーム名 新ビジョン・市民局職員提言検討会
- テーマ
- ★自分のまちに愛着をもち、自慢したくなるまち
 - ★安全で安心して暮らせる、笑顔あふれるまち
 - ★一人ひとりがいきいきと輝いて暮らせるまち
 - ★いつでも・どこでも・だれでも文化芸術・スポーツを楽しむまち
 - ★自宅で行政サービスを受けられ、ふれあい・あたたかさのあるまち

○概要 まちの理想の姿を上記テーマとし、実現するため分野別に提言

コミュニティ分野

- ・住民が共感し、自治活動に取り組んでいる。・地域ごとに個性を生かし、自律・成熟している。・顔なじみが多く、元気なあいさつが飛び交う。・誰でも出番と活躍の場がある。・公民館は誰もが気軽に集う「地域サロン」に。

交通安全・防犯分野

- ・規範意識が高まり、交通事故や飲酒運転がない。自転車の安全運転がされている。
- ・犯罪がおきにくく、暴力団が存在しない。住民自らが地域の安全を守る。

防災分野

- ・情報伝達手段の拡充、国内外の防災イベントの誘致等により、「5分以内に避難行動を始められる」「行政の全てに、また全ての施設に防災・減災の理念が生かされている」を目標とする。

人権分野

- ・あらゆる場における人権教育・啓発の推進により、すべての人の人権が尊重される社会を目指し、市民にとって幸せで住みよいユニバーサルシティ福岡を実現する。

男女共同参画分野

- ・様々な分野で、一人ひとりが性別にかかわらず、ライフスタイルを柔軟に選択できる男女共同参画社会において、自己実現が可能となり、豊かな人生を送ることができる。

文化・芸術分野

- ・アジアのアーティストと地元のアーティストが盛んに交流し、アジアに関連する文化事業が盛んとなっている。・福岡発の作品が次々に発表され、アーティストが公演だけでなく、教育や地域の場でも活躍している。福岡スタイルの文化を創造・発信している。

スポーツ分野

- ・いつでも、どこでも、だれでもスポーツ・レクリエーションを楽しめ、人が出会い、繋がっている。国境を超えたスポーツ・レクリエーションが盛んとなっている。

区政推進分野

- ・ICT技術の進歩（「テレビ電話」など）により、区役所窓口に出向かなくても手続きができるようになる。「テレビ電話」を利用し様々な交流が実現している

消費生活分野

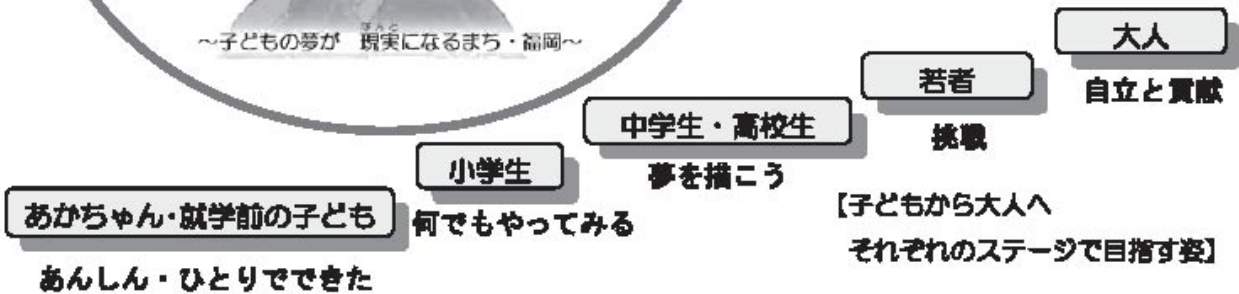
- ・ICT化が進み一人1IDの時代になっていることを活かす一方、ふれあい・あたたかさがある「安全、安心、孤独ではないまち、高い地域力」を目指す。
- ・主体的・合理的に行動する、自立した消費者力を持った市民（消費者）をつくる。

○提言チーム名 こども未来局職員提言検討チーム

○概要



「福岡市は、
子どもの夢が
現実になるまちに成長し、
福岡から世界に羽ばたく、
オンリーワンの子どもたちを
育てます」



子どもたちの姿

福岡の子どもは、みんなウェルカム かたらんねー

～お互いの個性や文化の違いを認め合い、笑顔あふれて思いやりのある子～

福岡の子どもは、熱か気持ちでオンリーワン

～アジアの街福岡に誇りを持ち、国際社会を力強く生き抜く子～

- ・「博多っ子スクール」の創設 福岡の文化体験，福岡を世界へ発信！
- ・「海外の友だちを10人作るプロジェクト」
- ・「おもてなし力アジアナンバー1」

「第2アジア語」を学び、「中高生子どもガイド」が観光客をおもてなし

福岡の子どもは、なんでんかんでんチャレンジするとよ

～失敗を恐れず、やってみたいことに何度でも挑戦する、たくましくいきいきした子～

- ・自然・農漁業・飼育員体験などを制覇した子どもを「福岡自然マイスター」に認定
- ・「小中学生チャレンジ！無人島5日間アドベンチャー体験」

集

熱

挑

子どもを取り巻く環境

ひとがよかまちがよか ふくおか

～一人ひとりが地域を愛して、地域の子どもの育てるまち～

- ・公民館に「駄菓子屋」「文具店」を整備 子どもの居場所と高齢者の活動の場に

のびのびっ子を育むまち ふくおか

～福岡らしさを大切にして、創造・発展するまち～

- ・音楽大学（音楽、芸能、演劇など）の設立

アジアと一緒にいっちゃん元気になるまち ふくおか

～アジア各国と一緒に成長して、リーダーシップをとれるまち～

- ・「地球っ子スクール」（英語村、中国語村、韓国語村）の創設
- ・「海外チャレンジ応援事業」 海外で技能を習得し福岡に広げていく若者を支援



○提言チーム名 保健福祉局職員提言検討チーム

○テーマ ～近未来ドキュメント～

“2036年 福岡市は世界で一番「やさしさに包まれたまち」になる！！”

○概要

～主人公・唐人町進さん（75）を通して、25年後の福岡市を疑似体験してみよう。～

25年後は「多様な人たちがイキイキ交じり合う元気なまち福岡」に

年齢、性別、国籍、人種などに関わらず、相互に興味関心を持ちながら、支え、支えられる思いやりを持ったまち、世界で一番「やさしさに包まれたまち」

福岡市の未来像① ふくおか恋愛都市宣言（シニアが恋してよかろうもん）

「恋の力でアンチエイジング」。恋愛を後押しする施策を行うことで次のような効果が期待できる。

- ① 恋をすると生活に張りが出て健康に →医療・介護に係る費用の低減
- ② プレゼントを買うなど、消費意欲の高まり →経済効果
- ③ デートや電話・ネットでの交流 →「孤独死」のセーフティーネット

福岡市の未来像② まちの変化

- ・アクティブシニアのまち：シニア向けのファッション店や趣味の店、飲食店等が建ち並ぶ地区や健康関連施設が並ぶウェルネスストリートを提案。
- ・アジア街の形成：アジア各地の食事・ショッピング等が楽しめたり、アジアのスター達に会えたりする地区を形成。
- ・「障がい」の垣根のない豊かな交流のまち：障がいのある人もない人も、一緒に働いたり、スポーツや芸術活動をとともに楽しむ機会が日常に溢れているまちに。
- ・健康づくりのまち：福岡市内の外出・中食産業は全てのメニューにカロリー表示。屋台も「健康メニュー」が並ぶ。
- ・バリアフリーのまち：市内の所々にちょっと休憩できるベンチが設置されている。道路は、歩車分離が進み、アスファルトには膝に優しい特別素材が使われている。

福岡市の未来像③ IT先進都市～シニアアプリ～

様々なIT化を強力的に推進。国民健康保険の手続きなどはオンラインで可能に。よかドック（特定健診）やガン検診などの受診結果もパソコンで経年結果を確認することができ、メールで情報を受取ることもできる。

また、65歳以上向けのアプリ開発を提案。公的サービスも民間サービスも、シニアに必要な情報はこれひとつに集約し、緊急時の連絡機能も登載。

福岡市の未来像④ 生きがいカフェ・チイキッサ

使用していない空き教室などを、文化活動や学習の場「生きがいカフェ」として地域が運営する。また、地域に住んでいる様々な職業人がスタッフとして協力する「地域キッサニア（チイキッサ）」をキッサニアの地域版として福岡市で試行。

○提言チーム名 環境局職員提言検討チーム

○テーマ 新世代環境都市ビジョン

○概要

地球温暖化や資源の枯渇、生態系の破壊など地球規模の環境問題が進行し深刻化する現状に加え、東日本大震災による福島第一原発事故を契機に、エネルギーの安定供給及び放射能汚染等についての懸念が高まっている。このような社会情勢の大きな変動を踏まえ、将来の本市の環境分野での都市づくりにおいて新しい価値を創造するとともに、誰もが経済的にも豊かで快適に暮らし、幸福感あふれた持続可能な社会の実現を目指す。

人と自然とアジアとともに、ときを超えて輝く地球によかまち・ふくおか

環境・エネルギー技術のショーケース都市として発展するまち・ふくおか

- ◇ 原発への依存度低減社会の下、省エネ技術により、エネルギー使用量は大幅減少。太陽光・風力・水素エネルギーを中心に、再生可能エネルギーを大幅導入
- ◇ 自立・分散型のエネルギーシステムを有し、安全・安心の観点から世界に評価され、アジアにおける環境・エネルギー技術の拠点となるショーケース都市
- ◇ 子どもから高齢者、観光客、誰もが自由に多様な手段で、カーボンゼロの移動ができるまち

生物多様性からの恵みを活力として成長する持続可能なまち・ふくおか

- ◇ 都市の魅力を支える生物多様性の重要性を認識し、地産地消を進め、その恵みである豊かな食文化を守り、発展を続けるまち
- ◇ 身近なみどり・自然とふれあえる自然資源へのアクセス性の良さを都市の魅力として発信し、まちを活性化
- ◇ 市民、事業者、行政等の多様な主体により、生物多様性の恵みによって育まれた福岡市固有の文化を継承・発展させ、地域への愛着と誇りの心によって絆をつくるまち

“大事に使う・皆で使う”スマートコンシューマーのすむ循環のまち・ふくおか

- ◇ 移住者も含めてすべての市民に“ものを大切に”“皆で使う”精神が根付き、ごみの排出抑制、リサイクルが自然にできる地域社会
- ◇ ごみは、再資源化・活用され、地域経済の元気の源になるまち

いつまでも住み続けたいと、誰もが思う安全・安心、快適なまち・ふくおか

- ◇ 市民の生活環境に関わる課題はほぼ克服され、次世代まで住み続けたいと市民が思う安全・安心で、快適なまち
- ◇ 気候変動への適応に先行的に取り組む、長期的展望に立った快適なまちづくりが浸透した地域社会

環境を守り社会・経済を発展させるアジアの人材を育てるまち・ふくおか

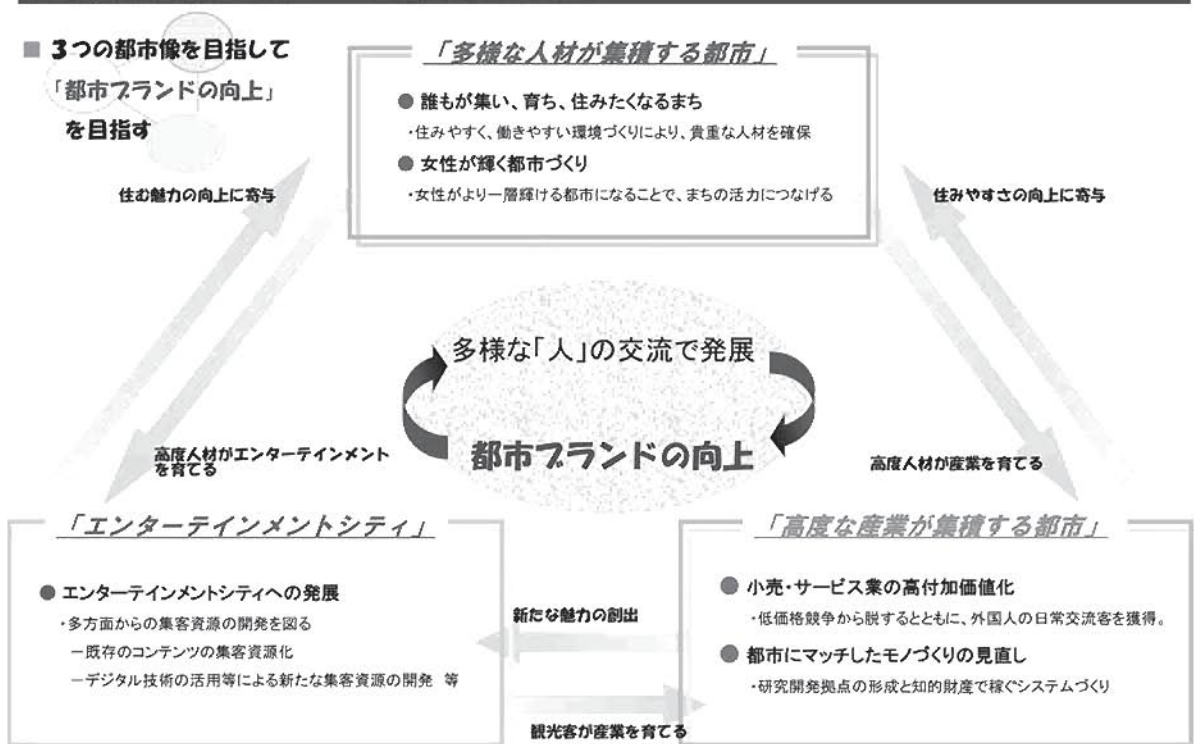
- ◇ アジアの環境分野の拠点都市となり、環境分野において最先端技術・知識を持つ人材が集まるまち
- ◇ アジアにおける環境技術のショーケース地域となり、環境技術を資源に産業・観光を興す人材がうまれるまち
- ◇ リサイクルビジネスでアジアに羽ばたく人材が育つまち
- ◇ 黄砂などの越境大気汚染の発生抑制のための技術移転・植林事業や「福岡方式」などの環境技術の活用により、国際貢献を推進

- 提言チーム名 経済振興局職員提言検討チーム
- テーマ 2036 - 「Fukuoka の時代」に備えよ -
- 概要

・将来の人口減少社会の到来が予測されるなか、福岡市が「商業都市」として発展を続けるためには、多くの、かつ多様な人が集まり、楽しみ、働くことで交流を活発化していくことが不可欠。

・「①高度な人材が集積する都市」「②エンターテインメントシティ」「③高度な産業が集積する都市」の3つの都市像を目指すことにより、多様な人の交流で発展し、本市の都市ブランドを向上させ、それがさらなる魅力につながって新たな人を惹きつける好循環をもたらし、成長していくまちを目指す。

経済振興局職員提言チームの提言〔全体概要〕



■ 「多様な人材が集積する都市」

本市のトップクラスの住みやすさや、女性・若者が多いという特性を活かすことで、多くの人が集まる都市を目指す。

■ 「エンターテインメントシティ」

本市に集積が進むデジタルコンテンツ産業のほか、観光施設、自然・歴史、文化・スポーツ等の様々なコンテンツを、エンターテインメントの観点から都市の魅力につなげ、国内外からのさらなる集客を目指す。

■ 「高度な産業が集積する都市」

本市の商業都市という特性を発展させるとともに、産業構造の重層化を図るため、第3次産業の高付加価値化と、都市にマッチしたモノづくりの見直しにより産業の振興を目指す。

- 提言チーム名 農林水産局職員提言チーム
- テーマ 農林水産業を通じて「真の豊かさ」を創造する



○概要

◆ **福岡市は恵まれた自然を有している。**

- 西部に農業振興地域、南部に森林、長い海岸線延長、博多湾を擁した独特の地形
- 人口が 145 万人超でありながら、豊かな自然に恵まれ、さらに都心部からすぐに行くことができる。
→ 豊かな自然と都市活動が調和。「ほどよく都会、ほどよく田舎」
- この「魅力」を守り、さらに磨きあげていくことが大事。この「魅力」を支えているのが農林水産業

◆ **都市の魅力に磨きをかけ、「豊かさ」を実感できる都市を目指す。**

- これからも福岡市が「住みやすい」と評価される都市であり続けるためには、「豊かさ」を実感できる都市へ
- 「豊かさ」はこれまで物質的なもので象徴されてきたが、25 年後は「お金」で買えない「精神的な豊かさ」が求められるようになる。
- 25 年後の「豊かさ」の象徴は「3C」
 - ・ 快適都市 (Comfort) 豊かな自然と潤いのある空間
 - ・ 文化都市 (Culture) 洗練された食文化、自然の中での活動、娯楽
 - ・ 交流都市 (Communication) 都市と農村の交流、生産者と消費者の交流

◆ **農林水産業は、都市の魅力を支え、「真の豊かさ」を創造していく。**

- 農林水産業は、食糧の生産にとどまらず、様々な分野で、都市の魅力を支え、「豊かさ」を創造していく。

国土保全 → 森林の水源涵養機能、農地の治水、保水機能

環境保全 → 森林による CO2 吸収

教育・食育 → 命を育む生産活動の尊さを知り、感謝の気持ちを醸成

癒し、潤いの創造 → 田園、牧場など良好な景観の形成、家庭菜園、市民農園などによる農業との触れ合い

食の安全・安心 → 「安全」で「安心」な食物を「安定」供給する市場機能。朝市、直売所における新鮮な農産物、魚介類の販売（生産者と消費者の交流）

経済振興（観光） → 地元の食材は食文化を支え、魅力ある観光資源。生産、流通、消費が近接している強みを活かす。

○提言チーム名 住宅都市局職員提言検討チーム

○概要

本市は、これまでの様々なまちづくりなどにより、コンパクトな市街地を形成し、快適便利な都市となっているが、経済活動の停滞、少子高齢化や人口減少など、都市を取り巻く社会情勢が厳しさを増す中、「海を体感できない」などといったまちづくりの課題も多く、今後は、アジアのパワーを取り込み、世界へ展開・情報発信することなどが必要となっている。

そこで、今後の都市づくりの基本的なスタンス、5つの「新たな都市像」を以下のとおり提言する。

《都市づくりの基本的なスタンス》

アジアとの交流の歴史を活かし、多種多様な文化や価値観を受容れ、
“ふくおか”に出会うすべての人たちを魅了する世界の“FUKUOKA”へ

《5つの「新たな都市像」》

都市像1：豊かな自然環境を守りながら、持続的発展を続ける

美しく風格ある環境共生都市“FUKUOKA”

立花山・脊振山などの山並みを背景に、アジアへの玄関口として玄海灘・博多湾がお出迎え。足を伸ばせば「あっ」という間に豊かな自然を身近に感じることができる都市。

市街地では、社会資本の更新や都市機能の充実が進むと同時に、自然・都市・歴史が調和した美しく風格ある街並みを創出し、特に都心部では緑やオープンスペースがあふれ、歩いて気持ち良い都市空間の中で、「海」を身近に感じることができる都市。

また、日常生活や経済活動、交通などにおいて、スマートエコロジーな都市をめざす。

都市像2：輝きを増した伝統文化・歴史資産が人々を魅了し、目を輝かせた

ビジネスパーソンが行き交うアジアの交流創造都市“FUKUOKA”

「YATAI（屋台）」「YAMAKASA（山笠）」など福岡の文化が世界共通言語として発信されるとともに、福岡城の天守閣などの歴史的シンボルが復元されることで、観光を目的とした来訪者が増え、来訪者との多言語コミュニケーションやおもてなしで魅了できる都市。

同時に、本市の成長産業であるICTやファッション産業、物流業界などでは、アジアをリードするビジネスパーソンとの交流が活発になり、新たなビジネスチャンスが創出され、そこで生まれたモノがアジアへ羽ばたける都市をめざす。

都市像3：「職住健学遊」が充実し、

誰もが安心して住み続けたいくなる快速安全都市“FUKUOKA”

高齢者、障がい者、子育て世代、学生、外国人など、誰もが安心して住み続けたいくなる、職(が)あり・住(まい)あり・健(やか)で・学(び)・遊(ぶ)のバランスが整ったユニバーサルな都市。

また、福岡県西方沖地震などの経験を踏まえ、大規模な災害にも対応できる建物の不燃化・耐震化や警固断層上の対応など、都市防災基盤のハード・ソフト整備が進んだ都市をめざす。

都市像4：一人ひとりが主役となって、「いつでも」「なんでも」「なんどでも」、

夢を持って挑戦できる元気活躍都市“FUKUOKA”

市民一人ひとりが社会との強いつながりを保ち、その知恵や技能など個性を生かしながら、学校、ビジネス、地域社会などにおいて、主体性を発揮できる都市。

セーフティネットが行き届き、誰もが世代を問わず、志を持って失敗を恐れずに、自分の夢に向かってチャレンジ可能な都市をめざす。

都市像5：市民・企業・NPO等の自立的活動が進み、

誰もが実感できる自治先進都市“FUKUOKA”

市民・企業・NPO等の社会貢献、地域貢献が日常的に行われ、各々の活動範囲における地域の魅力が向上し、さらにこれらの自立的活動が活性化していく都市。

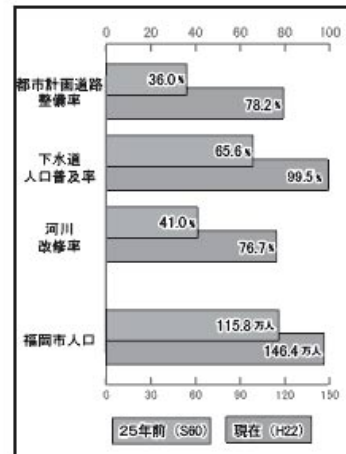
また、地域づくりにおける役割を果たしていく中で、市民一人ひとりが充足感を持って自分の住む地域を創出していくことが実感できる都市をめざす。

○提言チーム名 道路下水道局職員提言検討チーム
 ○テーマ アジアで輝き続ける循環型都市ふくおかを目指して
 ～市民・企業等との協働、福岡都市圏との連携を軸に～

○概要

＜現状分析とこれからの福岡市の発展のために＞

- ① 福岡市は、今までの25年間、市民ニーズに応じて道路・下水道・河川のハード整備を行い、世界の中でも有数の住みやすい都市として成長してきた。
- ② 現在では、都市の成長に伴う新たな市民ニーズやゲリラ豪雨など新たな自然災害、人口減少など社会の変化、温暖化など世界的な環境問題等に対応する必要が出てきている。
- ③ これからの福岡市の発展には、市民・企業との協働や福岡都市圏との連携により諸問題に対応し、安全、環境、活力の視点を大切にして「住みやすさ」「街の活力」「アジアとの近さ」といった本市の強みを強化する必要がある。



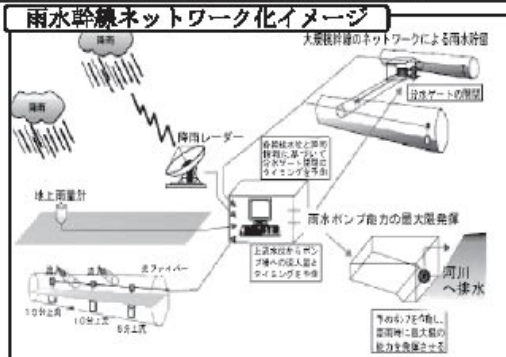
＜目指すべき社会と具体的な施策＞

上記①から③を踏まえ、福岡市が目指すべき社会と具体的な施策を提案する。

【Ⅰ 安全】地球温暖化の進行や大規模地震などの自然災害に対応できる強靱な社会

福岡都市圏の流域単位の総合的な治水・浸水対策

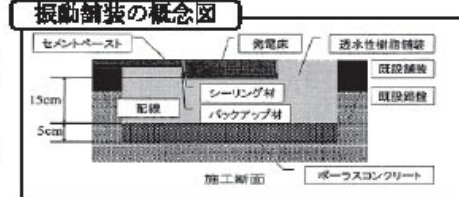
- ・ 県から市への二級河川の権限委譲
- ・ 既存施設の有効活用
(雨水幹線のネットワーク化等)
- ・ 人口減少に伴う空き地を活用した土地利用規制・誘導による床上げ規制、遊水池設置等、雨水貯留施設の整備



【Ⅱ 環境】住みやすさを維持・強化しつつ資源の逼迫に伴う省（創）エネルギー型社会

既存資産（道路空間、下水道施設）を活用した新エネルギー創出

- ・ 通行車両の振動を元に発電する振動舗装
- ・ 都心のビル風を活用する照明灯と一体式の風力発電施設
- ・ 太陽光など自然エネルギーを活用した電力100%自給型下水処理場



【Ⅲ 活力】既存資産や地域特性を活かした人が集う魅力ある社会
 アジアに向けたビジネスを創出する社会

都市空間の積極的な活用による魅力向上

- ・ 渡辺通りなど一定規模の道路を中心とした都市空間においてイベント実施
- ・ イベントの実施と合わせて、バス・自転車の利用を促進

道路空間を利用したイベント実施イメージ

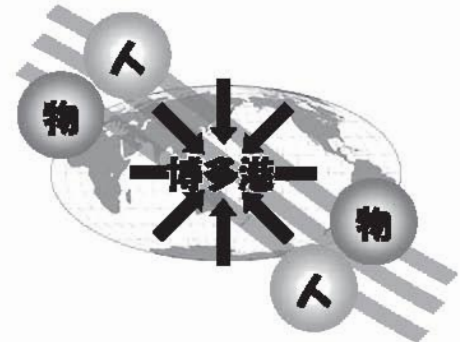


○提言チーム名 港湾局職員提言検討チーム「みなとチーム」

○テーマ 輝く個性で**人**、**物**を魅きつけるみなと

○概要

- ・人、物の「流」れがまちを活性化させる。
- ・一方、流しっぱなしにせず、博多港の地理的歴史的優位性を活かして人、物を「集」めてまちを活性化させる。
- ・集まった「人」をただ流すのではなく、いかにふくおかに「留」めてから流すかが重要。
- ・集めた「物」については、博多港独自の付加価値を加えたものを「創」りだして流す。



⇒ みなとの元気をまちの元気につなげ、ふくおかのまちを支えられるみなとになるため、「人を**集**め、**留**めて**流**すみなと」「物を**集**め、**創**りだして**流**すみなと」を提案する。

「人流」～人を集め、留めて流すみなと～



●日帰りされないための、夜と朝の魅力づくり

●中心部から離れた東西の核に人を集めることで、みなと全体をうるおすシャワー効果

提言1 人を魅惑するウォーターフロントと路面電車

- ・「集」都心部ウォーターフロントをアジアクルーズの拠点に
- ・「流」大博通りに2階建て路面電車(博多駅からウォーターフロントを通じて世界へ)
- ・「留」夜の中華街・屋台、朝の魚市場

提言2 東のグリーンアイランド ～アイランドシティ～

- ・「集」環境配慮型のまち、文化産業の拠点
- ・「流」種々の公共交通が選択できる交通体系の確立
- ・「留」高度医療の集積による医療ツーリズム、留学生の受入れ

提言3 西のグリーンアイランド ～能古島～

- ・「集」観光資源の掘り起こし、PR
- ・「流」歩行者・公共交通に限定した橋を架橋
- ・「留」季節ごとの夜のイベント、夜景

「物流」～物を集め、創りだして流すみなと～



●安定した貨物獲得のための、博多港オリジナル製品を創出

●物流コストの低減と手続きの簡素化による、選ばれるみなとづくり

提言1 アジアの台所『Kitchen of Asia』でつくる『Gameni がめ煮』

- ・「集」ブランド食材、九州産の食材を充実した国内輸送網を活かし市場に集荷
- ・「創」例えば九州の食材が詰まった『Gameni がめ煮』などのように、鮮度が命のオリジナル惣菜を博多港で創出
- ・「流」鮮度を保ったまま東アジアへ惣菜・食材をすぐにお届け

提言2 使用料の引下げと手続きの簡素化

- ・「集」みなと関連企業等の税の一部を港湾施設費に使える仕組みづくり
- ・「流」車両の国際間相互交通、車上通関等の規制緩和

提言3 エネルギー革命と水ビジネス

- ・「創」荒津地区を自然エネルギー創出の拠点に
- ・「流」下水処理水のバラスト利用、海水淡水化施設での水ビジネス

- 提言チーム名 消防局職員提言検討チーム
- テーマ 安全・安心からはじまるまち
- 概要

【人口構造の変化に伴う都市の変化】



・・・少子化，高齢化が更に進展し，災害時
要援護者の増加，救急需要の増加が深刻化することが予想される。



消防局が取り組むべきこと

- ・関係部局，医療機関，福祉施設等との緊密な連携
- ・防災教育・普及啓発の積極的な実施

例：市民病院に消防ヘリコプターを配置

- 救急の高度化による救命率の向上
- 関係部局，医療機関，福祉施設との連携強化による救急需要増加への対応
- 小・中一貫の防災教育による防災の担い手の育成

【国際化の進展】・・・観光客，ビジネスマン，留学生等の
外国人来訪者の増加が予想される一方
で，防災に対する意識の相違や言葉が
通じないことなどにより，災害時の救
護が必要となる。



消防局が取り組むべきこと

- ・外国人来訪者が安全に過ごせるように防災面に配慮したユニバーサルなまちづくり

例：海外への専門職員の派遣

- 職員の職務に必要な語学能力の向上
- 避難経路などの案内標識や避難誘導アナウンスの多言語化の推進
- アジア各国の消防組織との人材交流

【地域性の変化】・・・都市化に伴うコミュニティ機能の更なる低下や，高齢者世帯の増
加，住居形態の変化（核家族化）などにより，地域防災力の低下，
情報格差の拡大，防災に対する市民ニーズ
の多様化が予想される。



消防局が取り組むべきこと

- ・防災面からもバリアフリーのまちづくりの推進
- ・地域の特性に応じたきめ細やかで高水準のサービスの提供



例：各区に防災コミュニ
ティセンターが
オープン

- 防災活動を通じたコミュニティの強化
- 防災に関する知識，技術の提供
- 緊急情報提供サービスの充実
- 地域の防災リーダー（消防団，防災士など）の育成と活用
- 関係機関と連携した災害時要援護者情報の把握

○提言チーム名 水道局職員提言検討チーム

○テーマ 福岡市の水道事業の将来像

○概要

福岡市水道局は、九州最大の都市で水道水を供給するとともに、他の都市が経験していない大渇水という苦難に対して市民とともに取り組み続けてきた事業者でもある。

水道局の使命は、25年後においても現在と変わらず、市民への「安全で良質な水の安定供給」が基本である。

また、気象の変動による降水量の偏在化や人口増減に伴う水需要の変化、水道施設の老朽化、大規模災害への対策、さらにはリーダー都市として果たすべき役割など、今後、新たな局面に対応していくことになるが、この中において、福岡市の水道事業は、

○水道局の使命を将来に渡って実現していく「市民に信頼される水道」、

○これまでの経験や財産を活用し、福岡市と共通した課題を持つ九州地区の事業者の水の安定供給に関わる「九州を牽引する水道」、

○さらに深刻化すると考えられる世界的な水問題の解決への答えを持つ都市のひとつとして存在感を高めていく「世界へ発信する水道」

を将来像として目指していくべきと考えられる。

将来像の実現に向けた提言

将来像1 「市民に信頼される水道」

(提言 1-1) 浄水場の集約化等による浄水処理の効率化

(提言 1-2) 水管理センターの事故・災害対応拠点化

(提言 1-3) お客様のニーズに合わせた水道水のおいしさの追求と取り組みのアピール

(提言 1-4) 水道局が所有する水源林を活用した自然環境への取り組み

(提言 1-5) 水道事業の特徴を活かした新エネルギーの導入

(提言 1-6) スマートメーターの導入による経費削減と節水意識の向上

将来像2 「九州を牽引する水道」

(提言 2-1) 災害等への広域的協力体制の強化

(提言 2-2) 九州内の中小水道事業者の支援体制の確立

将来像3 「世界へ発信する水道」

(提言 3-1) 水道技術集積都市「福岡市」の世界への発信

【水管理センター(配水調整システム)】

配水管の水圧、流量を常時監視し、遠隔操作でバルブをコントロールすることにより、浄水場相互間の流量調整や水圧調整を行うシステム。昭和56年に全国に先駆けて導入。

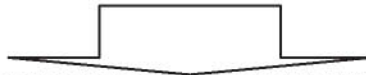


○提言チーム名 交通局職員提言検討チーム

○テーマ 25年後の地下鉄

○概要

- ・地下鉄は昭和56年に開業し、今年度で開業30周年。現在では3路線合計で29.8キロ、1日に34万人以上のお客様にご利用頂いており、市民生活、都市活動に不可欠な都市基盤施設として、これまでも福岡市の発展に大きく貢献してきた。
- ・25年後の福岡は人口の減少や高齢者割合の増加が予想されるとともに、さらなる環境への配慮など、様々な課題に対応していく必要がある。地下鉄がこれから迎える時代にふさわしい公共交通機関であるために、安全・安心、快適・便利なサービスを追求していくとともに、さらなる利用促進に努めていく必要がある。



25年後の地下鉄像を
「人と環境にやさしく、都市に活力を与え、お客様に愛される地下鉄」
 とし、その実現のため下記4項目を提言する。

提 言 項 目	提 言 要 旨
①未来につながる地下鉄 ・地下鉄七隈線の延伸 (天神南～博多駅) ・既設の地下鉄の活用	・地下鉄七隈線延伸計画の早期実現を目指すとともに、地下鉄の既存のストックを最大限に活用し利用促進を図る。 ・これからも関係局や他事業者等と連携しながら福岡の街とともに地下鉄も成長を続ける。
②自然環境と共生する地下鉄 ・自然エネルギーの活用 ・消費エネルギーの削減 ・自家用車からの転換	公共交通事業者としてできる低炭素社会の実現に向けた取組をさらに進めるとともに、今後とも「自然環境と共生する地下鉄」をコンセプトに、自家用車から地下鉄へ移動手段を転換したいと考えていただけるような、魅力ある地下鉄を目指す。
③人にやさしい地下鉄 ・すべての人が使いやすく 分かりやすい地下鉄 ・便利で生活に密着した地下鉄 ・心が癒されるあたたかい地下鉄	今後とも少子高齢化や国際交流の活性化などによる社会情勢の変化に適時適切に対応しながら、快適・便利で心癒される地下鉄を目指す。
④楽しい地下鉄 ・企画列車の運行 ・駅の個性化 ・地下鉄主催のイベントの開催 ・ICカード「はやかけん」の活用	地下鉄に「お楽しみ」の要素を加えることで、今よりもっと親しみを持っていただくとともに、地域に密着した、皆様に愛される交通機関を目指して、今後さらに利用促進につなげていく。

○提言チーム名 教育委員会職員提言検討チーム

≪1時間目≫アジアの人々と学び合える都市づくり

「アジアの一員としての福岡市民との意識」を醸成し、「様々な文化を持つ人々との共生を双方向で目指す態度」を身につけ、世界に目を向けた国際都市になろう。

◆ポイント◆

- ①英語以外でも簡単な会話ができるように小学校高学年から中国語, 韓国語を必修化!!
- ②校内放送の多言語化やアジアの学校との交流などアジアを意識した学校づくり!!
- ③身につけた語学力で住民レベルで伝統行事を紹介しあうなどの地域交流を!!

○
月
△
日

≪2時間目≫笑顔の子ども, 元気な先生, 楽しい学校

障がいの有無に関わらず全ての子どもが通い, いつも笑顔で学べる学校, 教員が子どもと向き合い, 教育活動に専念できる学校を作ろう。

◆ポイント◆

- ①全校でスロープなどの整備や福祉・医療の専門職の配置などユニバーサルスクール化!!
- ②ITを活用し, 学校に登校できない子どもが授業に参画できるような仕組みづくりの推進!!
- ③道徳や社会教育を中心とした「福岡版生きる力」を育てる学習を充実!!

日
直
×
×



≪3時間目≫地域で子どもを育み, 子どもの力で地域を元気にする

～ 地域と学校は共存共栄 ～

学校と地域が共存共栄するために, 学校と地域がそれぞれの課題を共有・解決したり, 海や山, 農業や商店街など地域の特色を活かしたり, 地域の方々が常に学校に関わっていく仕組みを作ろう。

◆ポイント◆

- ①高齢者による遊びの伝承やスポーツ選手による部活など地域の達人による指導!!
- ②学校で子育て相談やコミュニティ支援が受けられるなど学校のコンビニエンス化!!
- ③地域が抱える課題に子どもが職業訓練として関わり, 課題解決という収益が地域に還元される(コドモコミュニティビジネス)仕組みの確立!!

○
月
△
日

≪4時間目≫文化芸術を育み, 発信する都市

福岡市が国際都市として発展するため, 歴史・文化・芸術を創造・共生・発信することで「文化・芸術の街ふくおか」「歴史ある都市ふくおか」などと呼称される都市になろう。

◆ポイント◆

- ①芸術家による作品発表や絵画教室, 講演等を芸術村で開催し, 若手育成や情報発信を!!
- ②芸術家や音楽家などを学校に招聘し, 子どもの頃から「本物」に親しむ教育の推進!!
- ③国内外に福岡市の歴史を学び, 理解してもらうために, 福岡城・鴻臚館を復元するなど, 福岡市が歴史・文化を守り, 活かす都市であることを発信!!

日
直
×
×

